

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

1 枚のシート状のブランクにより形成された包装箱であって、

略方形状の外形を有する底板部（10）と、

底板部の四方の辺部から連設された側面部で、底板部の 1 の辺部である正面側の辺部から折れ線を介して連設された正面板部（12）と、底板部の右側面側の辺部から折れ線を介して連設された右側面板部（14）と、底板部の背面側の辺部から折れ線を介して連設された背面板部（16）と、底板部の左側面側の辺部から折れ線を介して連設された左側面板部（18）とを有する側面部（11）と、

背面板部の底板部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された内側構成部で、

背面板部の底板部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された内側側板部で、背面板部側に切欠部（32a）が形成され、該切欠部が、背面板部の上端の辺部と略平行な第 1 辺部（32d）と、第 1 辺部の右側面側の端部から背面板部側に向けて形成された第 2 辺部（32b）と、第 1 辺部の左側面側の端部から背面板部側に向けて形成された第 3 辺部（32c）とにより形成された内側側板部（32）と、

内側側板部の第 1 辺部から折れ線を介して連設された背面支持板部（40）と、

内側側板部の背面板部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された内側底板部（50）と、

内側底板部の内側側板部側とは反対側の辺部から連設され、正面板部の内側の面に接するとともに、底板部の内底面に接して内側底板部を支持する支持部（60）と、を有する内側構成部（30）と、

正面板部の底板部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された蓋板部（90）と

蓋板部の正面板部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された差し込み片で、蓋板部から連設された差し込み片本体部（102）と、差し込み片本体部の右側面側に突出した右側面側突状部（104）と、差し込み片本体部の左側面側に突出した左側面側突状部（106）とを有し、差し込み片の左右方向の最大長さが切欠部の左右方向の最大長さよりも長く形成された差し込み片（100）と、を有し、

内側側板部における第 2 辺部が、背面板部側から内側底板部側にいくに従い右側面側に傾斜した傾斜辺（32b-2）を有し、第 3 辺部が、背面板部側から内側底板部側にいくに従い左側面側に傾斜した傾斜辺（32c-2）を有し、

右側面側突状部の右側面側に、蓋板部側である差し込み片の基端側から差し込み片の先端側にいくに従い右側面側に傾斜した傾斜辺（104b）が形成され、左側面側突状部の左側面側に、蓋板部側である差し込み片の基端側から差し込み片の先端側にいくに従い左側面側に傾斜した傾斜辺（106b）が形成され、

蓋板部又は正面板部に破断線が形成され、

支持部が、正面板部の内側の面に接するとともに、底板部の内底面に接した状態において、内側側板部が、背面板部に対して鋭角の角度をなし、内側底板部側に行くに従い下方に傾斜して配置され、背面支持板部は、第 1 辺部側とは反対側の辺部である先端辺部側に行くに従い下方に傾斜し、該先端辺部が底板部と背面板部の間の境界位置又は背面板部の下端領域に当接し、

蓋板部を側面部に対して閉じる方向に正面板部に対して回動させ、右側面側突状部を第 2 辺部に当接させるとともに左側面側突状部を第 3 辺部に当接させた状態として、蓋板部の差し込み片側の領域を押し込むことにより、右側面側突状部と左側面側突状部とが差し込み片本体部に対して折曲又はしなることにより右側面側突状部と左側面側突状部が切欠部を通過し、右側面側突状部と左側面側突状部が差し込み片本体部に対して折曲又はしなった状態から復帰しようとすることにより、右側面側突状部と左側面側突状部が内側側板部に係止することにより包装箱が閉状態にロックされ、

破断線を破断することにより、少なくとも蓋板部における差し込み片と連設された領域

が差し込み片との間の折れ線（１００ａ）を介して回転することにより包装箱が開状態とされることを特徴とする包装箱。

【請求項２】

差し込み片において、差し込み片本体部と右側面側突状部間に折れ線（１０４ａ）が形成されるとともに、差し込み片本体部と左側面側突状部間に折れ線（１０６ａ）が形成されていることを特徴とする請求項１に記載の包装箱。

【請求項３】

差し込み片本体部と右側面側突状部間の折れ線（１０４ａ）と差し込み片本体部と左側面側突状部間の折れ線（１０６ａ）には、差し込み片の外側の面に罫線が形成されていることを特徴とする請求項２に記載の包装箱。

10

【請求項４】

破断線が、蓋板部の右側面側の辺部と正面側の辺部間に形成された第１破断線（９２ａ）と、蓋板部の左側面側の辺部と正面側の辺部間に形成された第２破断線（９２ｂ）とを有し、蓋板部と正面板部の境界位置又は正面板部に、第１破断線の正面側の端部と第２破断線の正面側の端部間に形成された切込み又は破断線からなる切目線（９２ｃ）が設けられていることを特徴とする請求項１又は２又は３に記載の包装箱。

【請求項５】

右側面板部の底板部側とは反対側の辺部と左側面板部の底板部側とは反対側の辺部には、フラップ部（２０、２２）が形成されていることを特徴とする請求項１又は２又は３又は４に記載の包装箱。

20

【請求項６】

内側底板部の右側面側の辺部から連設され、右側面板部の内側の面に接するとともに、底板部の内底面に接して内側底板部を支持する第２支持部（６０）と、内側底板部の左側面側の辺部から連設され、左側面板部の内側の面に接するとともに、底板部の内底面に接して内側底板部を支持する第３支持部（８０）とを有することを特徴とする請求項１又は２又は３又は４又は５に記載の包装箱。

【請求項７】

右側面側突状部には、右側面側突状部の傾斜辺の蓋板部側の端部と差し込み片本体部間に形成された辺部で、蓋板部における差し込み片本体部の右側面側の辺部が連設された辺部（９０ｄ）と略平行に間隔を介して対向した辺部である蓋板部対向辺部（１０４ｃ）が設けられ、また、左側面側突状部には、左側面側突状部の傾斜辺の蓋板部側の端部と差し込み片本体部間に形成された辺部で、蓋板部における差し込み片本体部の左側面側の辺部が連設された辺部（９０ｅ）と略平行に間隔を介して対向した辺部である蓋板部対向辺部（１０６ｃ）が設けられていることを特徴とする請求項１又は２又は３又は４又は５又は６に記載の包装箱。

30

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、包装箱に関するものであり、特に、不正開封を防止して改ざんを防止できる包装箱に関するものである。

40

【背景技術】

【０００２】

従来より、不正開封を防止して改ざんを防止できるカートンとして、特許文献１に記載のカートンや特許文献２に記載の不正開封防止ケースが存在する。

【０００３】

特許文献１に記載のカートンにおいては、筒状をなす側壁部と蓋部とを有し、蓋部の先端と側壁部の上端部との何れか一方に差し込み片が設けられ、何れか他方にこの差し込み片が差し込まれるスリットが設けられ、スリットが設けられた部材（つまり、側壁部と上記の差し込み片との少なくとも何れか一方）には弱め線が形成されている。

【０００４】

50

また、特許文献 2 の不正開封防止ケースにおいては、外側蓋フラップの内、先に折り畳むフラップ R の折り畳み線 r を跨ぐようにしてスリット t が形成され、後から折り畳む蓋フラップ P には差し込み片 S が連設され、差し込み片 S 側の折り畳み線 s の外側蓋フラップ P 側には、折り畳み線 s に平行な引き裂きジッパー v が設けられている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献 1】 実用新案登録第 3 1 4 2 4 7 1 号公報

【特許文献 2】 実用新案登録第 3 1 0 2 8 1 1 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

しかし、特許文献 1 のカートンや特許文献 2 の不正開封防止ケースにおいては、破断線を破断しなくても差し込み片が抜けるおそれがあるという問題がある。

【0007】

すなわち、特許文献 1 のカートンにおいては、補助スリット 4 3 と折り目線との間の略三角形の部分（以下三角部分 4 4 という）が、頭部 3 4 （フック 3 5）によって押さえつけられてその裏面側（内側）に入るようにして、スリット 4 1 に差し込み片 3 2 が挿入される。他方、これを抜こうとしても、紙の弾性によって三角部分 4 4 は元の状態に戻っているため、三角部分 4 4 はフック 3 5 の表面側（外側）に入ることとなり、これに引っ掛かって抜けなくなるとしているが、紙の弾性により三角部分 4 4 がフック 3 5 に引っ掛かっているのみであり、三角部分 4 4 を内側に押さえることにより、三角部分 4 4 のフック 3 5 への引っ掛かりを解除すると、差し込み片 3 2 は抜けてしまうおそれがある。

【0008】

また、特許文献 2 の不正開封防止ケースにおいても、スリット t が折り畳み線 r を跨いでいるので差し込み片 S の切り込み部 u が入り込んだ後は差し込み片 S の両端の角 w がスリット t の蓋フラップ R の内面に引っかかって嵌め殺しとなるとしているが、側壁片 4 を外側から押さえる等して、差し込み片 S を側壁片 4 に密接させることにより、差し込み片 S の蓋フラップ R への引っ掛かりが解除されて、差し込み片 S が抜けてしまうおそれがある。

【0009】

そこで、本発明が解決しようとする問題点は、蓋部から連設された差し込み片を差し込み片が連設された本体部側に係止させ、蓋部に破断線を設けることにより、破断線を破断しなければ開封することができない包装箱において、差し込み片が抜けるのを強固に防止することができる包装箱を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0010】

本発明は上記問題点を解決するために創作されたものであって、第 1 には、1 枚のシート状のブランクにより形成された包装箱であって、略方形の外形を有する底板部（10）と、底板部の四方の辺部から連設された側面部で、底板部の 1 の辺部である正面側の辺部から折れ線を介して連設された正面板部（12）と、底板部の右側面側の辺部から折れ線を介して連設された右側面板部（14）と、底板部の背面側の辺部から折れ線を介して連設された背面板部（16）と、底板部の左側面側の辺部から折れ線を介して連設された左側面板部（18）とを有する側面部（11）と、背面板部の底板部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された内側構成部で、背面板部の底板部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された内側側板部で、背面板部側に切欠部（32a）が形成され、該切欠部が、背面板部の上端の辺部と略平行な第 1 辺部（32d）と、第 1 辺部の右側面側の端部から背面板部側に向けて形成された第 2 辺部（32b）と、第 1 辺部の左側面側の端部から背面板部側に向けて形成された第 3 辺部（32c）とにより形成された内側側板部（32）と、内側側板部の第 1 辺部から折れ線を介して連設された背面支持板部（40）

と、内側側板部の背面板部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された内側底板部（５０）と、内側底板部の内側側板部側とは反対側の辺部から連設され、正面板部の内側の面に接するとともに、底板部の内底面に接して内側底板部を支持する支持部（６０）と、を有する内側構成部（３０）と、正面板部の底板部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された蓋板部（９０）と、蓋板部の正面板部側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された差し込み片で、蓋板部から連設された差し込み片本体部（１０２）と、差し込み片本体部の右側面側に突出した右側面側突状部（１０４）と、差し込み片本体部の左側面側に突出した左側面側突状部（１０６）とを有し、差し込み片の左右方向（横方向としてもよい）の最大長さが切欠部の左右方向（横方向としてもよい）の最大長さよりも長く形成された差し込み片（１００）と、を有し、内側側板部における第２辺部が、背面板部側から内側底板部側にいくに従い右側面側に傾斜した傾斜辺（３２ｂ－２）を有し、第３辺部が、背面板部側から内側底板部側にいくに従い左側面側に傾斜した傾斜辺（３２ｃ－２）を有し、右側面側突状部の右側面側に、蓋板部側である差し込み片の基端側から差し込み片の先端側にいくに従い右側面側に傾斜した傾斜辺（１０４ｂ）が形成され、左側面側突状部の左側面側に、蓋板部側である差し込み片の基端側から差し込み片の先端側にいくに従い左側面側に傾斜した傾斜辺（１０６ｂ）が形成され、蓋板部又は正面板部に破断線が形成され、支持部が、正面板部の内側の面に接するとともに、底板部の内底面に接した状態において、内側側板部が、背面板部に対して鋭角の角度をなし、内側底板部側に行くに従い下方に傾斜して配置され（「背面板部に対して鋭角の角度を介して内側底板部側に行くに従い下方に傾斜して配置され」としてもよい）、背面支持板部は、第１辺部側とは反対側の辺部である先端辺部側に行くに従い下方に傾斜し、該先端辺部が底板部と背面板部の間の境界位置又は背面板部の下端領域に当接し、蓋板部を側面部に対して閉じる方向に正面板部に対して回動させ、右側面側突状部を第２辺部に当接させるとともに左側面側突状部を第３辺部に当接させた状態として、蓋板部の差し込み片側の領域を押し込むことにより、右側面側突状部と左側面側突状部とが差し込み片本体部に対して折曲又はしなることにより右側面側突状部と左側面側突状部が切欠部を通過し、右側面側突状部と左側面側突状部が差し込み片本体部に対して折曲又はしなった状態から復帰しようとすることにより、右側面側突状部と左側面側突状部が内側側板部に係止することにより包装箱が閉状態にロックされ、破断線を破断することにより、少なくとも蓋板部における差し込み片と連設された領域が差し込み片との間の折れ線（１００ａ）を介して回動することにより包装箱が開状態とされることを特徴とする。

【００１１】

上記第１の構成の包装箱においては、差し込み片における右側面側突状部と左側面側突状部とを内側側板部に係止させることにより包装箱を閉状態にロックさせるので、差し込み片が係止した状態から抜けるのを強固に防止することができ、破断線を破断しなければ蓋板部を開ることができないので、良好に不正を防止して改ざんを防止することができる。

【００１２】

特に、差し込み片が内側側板部に係止して閉状態にロックされた状態の包装箱においては、包装箱の外側から右側面側突状部及び左側面側突状部の内側側板部への係止状態を解除することはできないので、差し込み片が抜けるのを強固に防止でき、右側面側突状部及び左側面側突状部の係止を解除しようとする、右側面側突状部と差し込み片本体部の接続部分や左側面側突状部と差し込み片本体部の接続部分を破断しなければならないことから、それらの接続部分が破断されていれば、不正が行われた可能性を知ることができる。

【００１３】

また、特に、背面支持板部により内側側板部が背面板部となす鋭角の角度を保つことができ、これにより、内側側板部と背面板部間の空間を広く形成することができるので、右側面側突状部と左側面側突状部が差し込み片本体部に対して大きく折曲した状態でも、右側面側突状部と左側面側突状部が切欠部の両側の端部を通過することができ、差し込み片の左右方向の長さと内側底板部の切欠部の左右方向の長さとの差が大きく、右側面側突状

部と左側面側突状部が左右方向に長く形成されていても、容易に右側面側突状部と左側面側突状部を内側側板部に係止させることができる。なお、右側面側突状部と左側面側突状部が長く形成される場合には、その分内側底板部と係止する長さが長くなり、差し込み片がより強固に係止されるので、差し込み片の抜けを強固に防止できる。

【0014】

また、第2には、上記第1の構成において、差し込み片において、差し込み片本体部と右側面側突状部間に折れ線(104a)が形成されるとともに、差し込み片本体部と左側面側突状部間に折れ線(106a)が形成されていることを特徴とする。よって、右側面側突状部及び左側面側突状部の差し込み片本体部に対する折曲を容易とできるので、右側面側突状部と左側面側突状部が容易に切欠部を通過させることができる。

10

【0015】

また、第3には、上記第2の構成において、差し込み片本体部と右側面側突状部間の折れ線(104a)と差し込み片本体部と左側面側突状部間の折れ線(106a)には、差し込み片の外側の面に罫線が形成されていることを特徴とする。よって、右側面側突状部と左側面側突状部が切欠部を通過する際に差し込み片本体部に対して折曲した右側面側突状部と左側面側突状部とが復帰しやすくすることができ、容易に右側面側突状部と左側面側突状部を内側側板部に係止させることができる。

【0016】

また、第4には、上記第1から第3までのいずれかの構成において、破断線が、蓋板部の右側面側の辺部と正面側の辺部間に形成された第1破断線(92a)と、蓋板部の左側面側の辺部と正面側の辺部間に形成された第2破断線(92b)とを有し、蓋板部と正面板部の境界位置又は正面板部に、第1破断線の正面側の端部と第2破断線の正面側の端部間に形成された切込み又は破断線からなる切目線(92c)が設けられている(「第1破断線の正面側の端部と第2破断線の正面側の端部とをむすぶ(接続する)切込み又は破断線からなる切目線(92c)が形成されている」としてもよい)ことを特徴とする。

20

【0017】

また、第5には、上記第1から第4までのいずれかの構成において、右側面板部の底板部側とは反対側の辺部と左側面板部の底板部側とは反対側の辺部には、フラップ部(20、22)が形成されていることを特徴とする。よって、包装箱が閉状態でロックされた状態で、蓋板部90の右側面側や左側面側から収納された商品を取り出そうとしても、それを防止することができる。

30

【0018】

また、第6には、上記第1から第5までのいずれかの構成において、内側底板部の右側面側の辺部から連設され、右側面板部の内側の面に接するとともに、底板部の内底面に接して内側底板部を支持する第2支持部(60)と、内側底板部の左側面側の辺部から連設され、左側面板部の内側の面に接するとともに、底板部の内底面に接して内側底板部を支持する第3支持部(80)とを有することを特徴とする。

【0019】

また、第7には、上記第1から第6までのいずれかの構成において、右側面側突状部には、右側面側突状部の傾斜辺の蓋板部側の端部と差し込み片本体部間に形成された辺部で、蓋板部における差し込み片本体部の右側面側の辺部が連設された辺部(90d)と略平行に間隔を介して対向した辺部である蓋板部対向辺部(104c)が設けられ、また、左側面側突状部には、左側面側突状部の傾斜辺の蓋板部側の端部と差し込み片本体部間に形成された辺部で、蓋板部における差し込み片本体部の左側面側の辺部が連設された辺部(90e)と略平行に間隔を介して対向した辺部である蓋板部対向辺部(106c)が設けられていることを特徴とする。これにより、右側面側突状部と左側面側突状部が内側側板部に係止した状態では、特に、右側面側突状部の蓋板部対向辺部と蓋板部の辺部間に内側側板部の第2辺部付近の領域が位置し、左側面側突状部の蓋板部対向辺部と蓋板部の辺部間に内側側板部の第3辺部付近の領域が位置することにより、より確実に差し込み片を内側側板部に係止させることができる。

40

50

【0020】

また、第8の構成として、以下の構成としてもよい。すなわち、「上記第2の構成及び第2の構成に従属する構成におけるいずれかの構成において、1枚のシート状のブランクが両面段ボール材であり、段ボール材の段の方向が左右方向であり、差し込み片本体部と右側面側突状部間の折れ線（104a）及び差し込み片本体部と左側面側突状部間の折れ線（106a）と段ボール材の段の方向とが直交することを特徴とする包装箱。」とする。

【発明の効果】

【0021】

本発明に基づく包装箱によれば、差し込み片における右側面側突状部と左側面側突状部とを内側側板部に係止させることにより包装箱を閉状態にロックさせるので、差し込み片が係止した状態から抜けるのを強固に防止することができ、破断線を破断しなければ蓋板部を開けることができないので、良好に不正を防止して改ざんを防止することができる。

【0022】

特に、差し込み片が内側側板部に係止して閉状態にロックされた状態の包装箱においては、包装箱の外側から右側面側突状部及び左側面側突状部の内側側板部への係止状態を解除することはできないので、差し込み片が抜けるのを強固に防止でき、右側面側突状部及び左側面側突状部の係止を解除しようとする、右側面側突状部と差し込み片本体部の接続部分や左側面側突状部と差し込み片本体部の接続部分を破断しなければならないことから、それらの接続部分が破断されていれば、不正が行われた可能性を知ることができる。

【0023】

また、特に、背面支持板部により内側側板部が背面板部となす鋭角の角度を保つことができ、これにより、内側側板部と背面板部間の空間を広く形成することができるので、右側面側突状部と左側面側突状部が差し込み片本体部に対して大きく折曲した状態でも、右側面側突状部と左側面側突状部が切欠部の両側の端部を通過することができ、差し込み片の左右方向の長さとの内側底板部の切欠部の左右方向の長さとの差が大きく、右側面側突状部と左側面側突状部が左右方向に長く形成されていても、容易に右側面側突状部と左側面側突状部を内側側板部に係止させることができる。なお、右側面側突状部と左側面側突状部が長く形成される場合には、その分内側底板部と係止する長さが長くなり、差し込み片がより強固に係止されるので、差し込み片の抜けを強固に防止できる。

【図面の簡単な説明】

【0024】

【図1】包装箱の前方斜視図であり、包装箱を閉状態にロックした状態を示す前方斜視図である。

【図2】包装箱の後方斜視図であり、包装箱を閉状態にロックした状態を示す後方斜視図である。

【図3】包装箱の背面図であり、包装箱を閉状態にロックした状態を示す背面図である。

【図4】図2のA-A断面図である。

【図5】図4の拡大断面図である。

【図6】包装箱の前方斜視図であり、蓋板部とフラップ部を開けた状態を示す前方斜視図である。

【図7】包装箱の後方斜視図であり、蓋板部とフラップ部を開けた状態を示す後方斜視図である。

【図8】包装箱の要部平面図であり、蓋板部とフラップ部を開けた状態を示す要部平面図である。

【図9】包装箱の展開図である。

【図10】図9の要部拡大図である。

【図11】図9の要部拡大図である。

【図12】図9の要部拡大図である。

【図13】蓋板部を閉じる際の工程を示す要部断面図である。

10

20

30

40

50

【図 1 4】破断線を破断して包装箱を開けた状態を示す前方斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0025】

本発明においては、蓋部から連設された差し込み片を差し込み片が連設された本体部側に係止させ、蓋部に破断線を設けることにより、破断線を破断しなければ開封することができない包装箱において、差し込み片が抜けるのを強固に防止することができる包装箱を提供するという目的を以下のようにして実現した。

【0026】

本実施例の包装箱 5 は、図 1 ～図 1 2 に示すように構成され、本体部 7 と、本体部 7 における正面部 1 2 から連設された蓋部 9 0 と、蓋部 9 0 から連設された差し込み片 1 0 0 と、本体部 7 における背面部 1 6 から連設された内側構成部 3 0 と、を有している。包装箱 5 は、図 9 に示すように、1 枚のシート状のブランク（具体的には、段ボール（特に、紙製段ボール（特に、紙製両面段ボール））、他のシート状のブランク（例えば、厚紙）でもよい）により形成されている。なお、図 1 ～図 5 は、蓋部 9 0 を閉じることにより包装箱 5 が閉じた状態を示している。

【0027】

ここで、本体部 7 は、底板部 1 0 と、底板部 1 0 の正面側の辺部から折れ線を介して連設された正面部 1 2 と、正面部 1 2 の右側面側の辺部から折れ線を介して連設された糊代部 1 2 a と、正面部 1 2 の左側面側の辺部から折れ線を介して連設された糊代部 1 2 b と、底板部 1 0 の右側面側の辺部から折れ線を介して連設された右側面板部 1 4 と、底板部 1 0 の背面側の辺部から折れ線を介して連設された背面部 1 6 と、背面部 1 6 の右側面側の辺部から折れ線を介して連設された糊代部 1 6 a と、背面部 1 6 の左側面側の辺部から折れ線を介して連設された糊代部 1 6 b と、底板部 1 0 の左側面側の辺部から折れ線を介して連設された左側面板部 1 8 と、右側面板部 1 4 の先端側の辺部（底面部部 1 0 側とは反対側の辺部）から折れ線を介して連設されたフラップ部 2 0 と、左側面板部 1 8 の先端側の辺部（底面部部 1 0 側とは反対側の辺部）から折れ線を介して連設されたフラップ部 2 2 と、を有している。

【0028】

ここで、底板部 1 0 は、方形状（具体的には、長方形）の板状を呈している。底板部 1 0 の正面側の辺部と背面側の辺部とは、左右方向を向いており、右側面側の辺部と左側面側の辺部とは、前後方向を向いている。

【0029】

正面部 1 2 は、台形状（等脚台形状）（略台形状としてもよい）を呈し、底板部 1 0 から蓋部 9 0 側にいくに従い横方向の幅が幅広となっている。なお、正面部 1 2 は、長方形であってもよい。また、糊代部 1 2 a、1 2 b は、正面部 1 2 側から先端側に行くに従い幅狭に形成され、略台形状に形成されている。糊代部 1 2 a は、右側面板部 1 4 の内側の面の正面側の端部領域に接着され、糊代部 1 2 b は、左側面板部 1 8 の内側の面の正面側の端部領域に接着されている。

【0030】

また、右側面板部 1 4 は、台形状（等脚台形状）（略台形状としてもよい）を呈し、底板部 1 0 からフラップ部 2 0 側にいくに従い横方向の幅が幅広となっている。

【0031】

また、背面部 1 6 は、略台形状（略等脚台形状）を呈し、底板部 1 0 から内側側面部 3 2 側にいくに従い横方向の幅が幅広となっている。背面部 1 6 の上端の中央の領域には、帯状の突状に形成された突状部 1 6 e を有し、背面部 1 6 は、全体に凸状に形成されている。なお、背面部 1 6 は、長方形であってもよい。また、糊代部 1 6 a、1 6 b は、背面部 1 6 側から先端側に行くに従い幅狭に形成され、略台形状に形成されている。糊代部 1 6 a は、右側面板部 1 4 の内側の面の背面側の端部領域に接着され、糊代部 1 6 b は、左側面板部 1 8 の内側の面の背面側の端部領域に接着されている。

【0032】

10

20

30

40

50

また、左側面板部 18 は、台形状（等脚台形状）（略台形状としてもよい）を呈し、底板部 10 からフラップ部 22 側にいくに従い横方向の幅が幅広となっている。

【0033】

本体部 7 を組み立てた状態における正面部 12 の上下方向の幅と右側面板部 14 の上下方向の幅と背面板部 16 の上下方向の幅と左側面板部 18 の上下方向の幅は同一（略同一としてもよい）に形成されている。

【0034】

なお、正面部 12 と右側面板部 14 と背面板部 16 と左側面板部 18 と糊代部 12a、12b、16a、16b とにより、底板部 10 の四方の辺部から連設され、底板部 10 の四方の辺部から立設した側面部 11 が形成される。正面部 12 と右側面板部 14 と背面板部 16 と左側面板部 18 は台形状であるので、側面部 11 はテーパ状を呈している。

【0035】

また、フラップ部 20 は、方形状（長形状）の先端側の一对の角部における正面側の角部にアールを形成するとともに、背面側の角部に切欠部 20a を形成した形状となっている。切欠部 20a は、内側構成部 30 を本体部 7 の内部に収納し、フラップ部 20 を本体部 7 の上面の開口部（正面部 12 と右側面板部 14 と背面板部 16 と左側面板部 18 の上端に囲まれた開口部）に対して閉じた状態とした場合に、背面板部 16 の上端と内側側板部 32 により形成された開口部を被覆しないように形成されている。つまり、切欠部 20a の辺部は略 L 字状に形成され、切欠部 20a を構成する略 L 字状の辺部のうち背面側の辺部 20a-1 は、内側構成部 30 を本体部 7 の内部に収納し、フラップ部 20 を閉じた状態とした場合に、内側側板部 32 の切欠部 32a を構成する辺部のうちの右側面側の辺部 32b（背面板部 16 と内側側板部 32 間の折れ線に対して斜めに傾斜した辺部 32b）の外側（右側面側）に辺部 32b と略平行となる。また、右側面板部 14 とフラップ部 20 間の境界位置には、略コ字状の切込み 20b が形成され、切込み 20b の正面側と背面側に右側面板部 14 とフラップ部 20 間の折れ線が連設されている。

【0036】

また、フラップ部 22 は、フラップ部 20 と対称（線対称）に形成され、方形状（長形状）の先端側の一对の角部における正面側の角部にアールを形成するとともに、背面側の角部に切欠部 22a を形成した形状となっている。切欠部 22a は、内側構成部 30 を本体部 7 の内部に収納し、フラップ部 22 を本体部 7 の上面の開口部に対して閉じた状態とした場合に、背面板部 16 の上端と内側側板部 32 により形成された開口部を被覆しないように形成されている。つまり、切欠部 22a の辺部は略 L 字状に形成され、切欠部 22a を構成する略 L 字状の辺部のうち背面側の辺部 22a-1 は、内側構成部 30 を本体部 7 の内部に収納し、フラップ部 22 を閉じた状態とした場合に、内側側板部 32 の切欠部 32a を構成する辺部のうちの左側面側の辺部 32c（背面板部 16 と内側側板部 32 間の折れ線に対して斜めに傾斜した辺部 32c）の外側（左側面側）に辺部 32c と略平行となる。また、左側面板部 18 とフラップ部 22 間の境界位置には、略コ字状の切込み 22b が形成され、切込み 22b の正面側と背面側に左側面板部 18 とフラップ部 22 間の折れ線が連設されている。

【0037】

なお、フラップ部 20、22 が設けられていることにより、蓋板部 90 が閉じて包装箱が閉状態でロックされた状態で、蓋板部 90 の右側面側や左側面側から収納された商品を取り出そうとしても、それを防止することができる。

【0038】

以上のように、正面部 12 と右側面板部 14 と背面板部 16 と左側面板部 18 とは、台形状であり、正面部 12 と右側面板部 14 と背面板部 16 と左側面板部 18 とにより形成される側面部は、テーパ状に形成されている。

【0039】

包装箱 5 を組み立てた状態では、糊代部 12a、16a は、右側面板部 14 の内側の面

10

20

30

40

50

に接着され、糊代部 12b、16b は、左側面板部 18 の内側の面に接着されている。

【0040】

なお、正面板部 12 と右側面板部 14 と背面板部 16 と左側面板部 18 とは、台形状であるとしたが、長方形形状であってもよい。

【0041】

また、内側構成部 30 は、背面板部 16 の底板部 10 側とは反対側の辺部から折れ線 16c、16d を介して連設された内側側板部 32 と、内側側板部 32 の切欠部の辺部 32d から折れ線を介して連設された背面支持板部 40 と、内側側板部 32 の背面板部 16 側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された内側底板部 50 と、内側底板部 50 の内側側板部 32 側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設された正面支持板部（支持部）60 と、内側底板部 50 の右側面側の辺部から折れ線を介して連設された側面支持板部（第 2 支持部）70 と、内側底板部 50 の左側面側の辺部から折れ線を介して連設された側面支持板部（第 3 支持部）80 とを有している。

【0042】

ここで、内側側板部 32 は、長方形形状に略台形状の切欠部 32a（図 7 参照）を形成した形状を呈し、該切欠部 32a は、内側底板部 32 の背面板部 16 側に形成され、切欠部 32a は、折れ線 16c から連設された辺部（第 2 辺部）32b と、折れ線 16d から連設された辺部（第 3 辺部）32c と、辺部 32b と辺部 32c 間に形成された辺部（第 1 辺部）32d により形成され、辺部 32b は、折れ線 16c に対して直角方向の短い辺部 32b-1 と、辺部 32b-1 の折れ線 16c 側とは反対側の端部から連設され、内側底板部 50 側にいくほど右側面側に傾斜する直線状の傾斜辺である辺部 32b-2 とを有し、辺部 32c は、折れ線 16d に対して直角方向の短い辺部 32c-1 と、辺部 32c-1 の折れ線 16d 側とは反対側の端部から連設され、内側底板部 50 側にいくほど左側面側に傾斜する直線状の傾斜辺である辺部 32c-2 とを有し、辺部 32b と辺部 32c とは対称（線対称）（略対称（略線対称）としてもよい）に形成されている。また、辺部 32d は、折れ線 16c、16d や、背面板部 16 における突状部 16e の水平方向の辺部 16e-1 と平行（略平行としてもよい）に形成されている。なお、傾斜辺である辺部 32b-2 と辺部 32d がなす角度 γ_1 や傾斜辺である辺部 32c-2 と辺部 32d がなす角度 γ_2 は、鋭角であり、50 度～70 度（好適には、55 度～65 度）となっている。角度 γ_1 と角度 γ_2 は、同一（略同一としてもよい）に形成されている。内側側板部 32 は、左右対称に形成されている。

【0043】

この内側側板部 32 は、背面板部 16 の突状部 16e とは、辺部 32b-1 に沿った切込みと辺部 32c-1 に沿った切込みを介して隣接している。

【0044】

この切欠部 32a は、差し込み片 100 の先端側の領域が挿通可能で、特に、差し込み片 100 の突状部 104、106 が切欠部 32a の両側の領域を挿通可能な大きさに形成され、辺部 32b の背面板部 16 側の端部（辺部 32b-1 の背面板部 16 側の端部）と辺部 32d 間の長さ R1 は、突状部 104 の長さ（差し込み片 100 の基端側から先端側までの長さ）S1 よりも大きく形成され、辺部 32c の背面板部 16 側の端部（辺部 32c-1 の背面板部 16 側の端部）と辺部 32d 間の長さ R2 は、突状部 104 の長さ（差し込み片 100 の基端側から先端側までの長さ）S2 よりも大きく形成されている。長さ R1 は長さ R2 と同一（略同一としてもよい）であり、長さ S1 は長さ S2 と同一（略同一としてもよい）である。ただし、後述のように、差し込み片 100 の左右方向の最大幅 α_1 は、切欠部 32a の左右方向の最大幅 β_1 よりも大きいので、差し込み片 100 の先端側の領域が切欠部 32a を挿通（通過）する際には、突状部 104、106 が本体部 102 に対して折曲した状態となる。

【0045】

背面支持板部 40 は、切欠部 32a 内に形成され、辺部 32d とは折れ線及び切込み K32d-1、K32d-2 を介して隣接しており、包装箱 5 の展開状態では（つまり、図

9～図11の状態では)、背面支持板部40は、内側側板部32の辺部32bと切込みK32bを介して隣接するとともに、辺部32cと切込みK32cを介して隣接し、背面板部16と切込みK32e(辺部16e-1に沿って形成された切込み)を介して隣接し、背面板部16の突状部16eと直線状の切込みを介して隣接している。つまり、辺部32dの両側の端部には、切込みK32bと連設した切込みK32d-1と切込みK32cと連設した切込みK32d-2とが形成され、切込みK32d-1と切込みK32d-2間の折れ線には、間隔を介して切込みが形成されている。

【0046】

また、背面支持板部40の右側面側には、切込みK32d-1の辺部32d(つまり、折れ線)側の基端から右側面側に切込みK32d-1に対して斜めに傾斜した折れ線40aが形成され、背面支持板部40における折れ線40aよりも右側面側の先端が先端片42となり、また、背面支持板部40の左側面側には、切込みK32d-2の辺部32d(つまり、折れ線)側の基端から左側面側に切込みK32d-2に対して斜めに傾斜した折れ線40bが形成され、背面支持板部40における折れ線40bよりも左側面側の先端が先端片44となる。先端片42、44は、略三角形形状を呈している。

【0047】

包装箱5を組み立てて、内側構成部30を本体部7内に収納した状態では、内側側板部32は、背面板部16側から下方に傾斜した状態となり、背面板部16に対して鋭角の角度Z(具体的には、40度～60度)をなし(図5参照)、背面支持板部40は、内側側板部32の辺部32dから下方に傾斜した状態となり、背面支持板部40の下辺(辺部32dとは反対側の辺部)(先端辺部)は、底板部10と背面板部16間の角部(つまり、底板部10と背面板部16の間の境界位置又は背面板部16の下端領域)に当接する。

【0048】

また、内側底板部50は、長方形形状の三辺に帯状の切欠部を形成した形状を呈し、本体部7内に収納可能な形状・大きさを有している。すなわち、内側底板部50の右側面側の辺部には側面支持板部70の台部74を形成するための切欠部が形成され、内側側板部32側とは反対側の辺部には、正面支持板部60の台部64を形成するための切欠部が形成され、左側面側の辺部には側面支持板部80の台部84を形成するための切欠部が形成されている。内側底板部50には、被収納物を配置するための開口部50-1、50-2、50-3が形成されている。なお、内側底板部50と内側側板部32間の折れ線には、折れ線の折曲げを容易とするための複数の切込みが間隔を介して形成されている。内側底板部50は、包装箱5を組み立てて、内側構成部30を本体部7内に収納した状態において、図4等に応示するように、本体部7内に収納可能な大きさに形成されている。

【0049】

また、正面支持板部60は、内側底板部50の内側側板部32側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設され、本体部62と、本体部62から突出した台部64とを有している。本体部62は、帯状(細長長方形形状の先端側の2つの角部にアールを形成した形状)を呈し、台部64は、本体部62の内側底板部50側から連設され、帯状(細長長方形形状の先端側の2つの角部にアールを形成した形状)を呈している。内側構成部30の展開状態において、台部64は、内側底板部50とは切込み50aを介して隣接している。

【0050】

また、側面支持板部70は、内側底板部50の右側面側の辺部から折れ線を介して連設され、本体部72と、本体部72から突出した台部74とを有している。本体部72は、帯状(細長長方形形状の先端側の2つの角部における一方(内側側板部32側の角部)を斜めに欠切するとともに、他方にアールを形成した形状)を呈し、台部74は、本体部72の内側底板部50側から連設され、帯状(細長長方形形状の先端側の2つの角部にアールを形成した形状)を呈している。内側構成部30の展開状態において、台部74は、内側底板部50とは切込み50bを介して隣接している。

【0051】

また、側面支持板部80は、側面支持板部70と対称に形成され、内側底板部50の左

10

20

30

40

50

側面側の辺部から折れ線を介して連設され、本体部 8 2 と、本体部 8 2 から突出した台部 8 4 とを有している。本体部 8 2 は、帯状（細長長方形の先端側の 2 つの角部における一方（内側側板部 3 2 側の角部）を斜めに欠切するとともに、他方にアールを形成した形状）を呈し、台部 8 4 は、本体部 8 2 の内側底板部 5 0 側から連設され、帯状（細長長方形の先端側の 2 つの角部にアールを形成した形状）を呈している。内側構成部 3 0 の展開状態において、台部 8 4 は、内側底板部 5 0 とは切込み 5 0 c を介して隣接している。

【0052】

台部 6 4、7 4、8 4 は、内側構成部 3 0 を本体部 7 内に配置する際に、正面支持板部 6 0 と側面支持板部 7 0、8 0 が立設して底板部 1 0 の内底面に接することにより、内側底板部 5 0 を支持するものであり、台部 6 4 の本体部 6 2 との連設位置から先端までの長さ、台部 7 4 の本体部 7 2 との連設位置から先端までの長さ、台部 8 4 の本体部 8 2 との連設位置から先端までの長さは、同一（略同一としてもよい）に形成されている。正面支持板部 6 0 と側面支持板部 7 0、8 0 は、内側構成部 3 0 を本体部 7 内に配置した状態では本体部 7 の収納空間から上方に突出しないように形成され、正面支持板部 6 0 の上下方向の長さは、正面板部 1 2 の上下方向の長さ以下に形成され、側面支持板部 7 0 の上下方向の長さは、右側面板部 1 4 の上下方向の長さ以下に形成され、側面支持板部 8 0 の上下方向の長さは、左側面板部 1 8 の上下方向の長さ以下に形成されている。

【0053】

包装箱 5 を組み立てて、内側構成部 3 0 を本体部 7 内に収納した状態では、正面支持板部 6 0 の外側の面は正面板部 1 2 の内側の面に接し、側面支持板部 7 0 の外側の面は右側面板部 1 4 の内側の面に接し、側面支持板部 8 0 の外側の面は左側面板部 1 8 の内側の面に接した状態となり、正面支持板部 6 0 と側面支持板部 7 0、8 0 が底板部 1 0 の内底面に接した状態となって、内側底板部 5 0 は、底板部 1 0 の上方に底板部 1 0 と略平行の状態となる。

【0054】

また、蓋板部 9 0 は、正面板部 1 2 の底板部 1 0 とは反対側の辺部から折れ線を介して連設され、本体部 7 の上面の開口部を被覆可能な形状と大きさに形成され、正面板部 1 2 の上辺と右側面板部 1 4 の上辺と背面板部 1 6 の上辺と左側面板部 1 8 の上辺により囲まれた形状と略同一の形状を呈している。蓋板部 9 0 の正面板部 1 2 側とは反対側の辺部における差し込み片 1 0 0 が連設された領域の両側には、差し込み片 1 0 0 を蓋板部 9 0 に対して大きく折り曲げることが可能なように、凹部 9 1 a、9 1 b が形成されている。また、蓋板部 9 0 の正面側の辺部 9 0 a（正面板部 1 2 と連設された側の辺部で正面板部 1 2 間の折れ線と一致する）と、該辺部 9 0 a と隣接する一対の辺部 9 0 b、9 0 c 間には、辺部 9 0 a や辺部 9 0 b、9 0 c に対して傾斜した破断線（切目線）9 2 a、9 2 b が形成されている。つまり、破断線 9 2 a は、辺部 9 0 a と辺部 9 0 b 間に形成され、破断線 9 2 b は、辺部 9 0 a と辺部 9 0 c 間に形成され、破断線 9 2 a と破断線 9 2 b とはテーパ状に形成されている。また、正面板部 1 2 と蓋板部 9 0 の境界位置には、辺部 9 0 a と略同一の方向に切込み（切目線）9 2 c が形成され、切込み 9 2 c は、破断線 9 2 a の正面側（正面板部 1 2 側）の先端（端部）と破断線 9 2 b の正面側（正面板部 1 2 側）の先端（端部）との間に形成され、辺部 9 0 a と平行で辺部 9 0 a よりもやや正面板部 1 2 側に形成された直線状分と、該直線部分の両端から破断線 9 2 a、9 2 b 側に湾曲した湾曲部とを有している。これにより、包装箱 5 を組み立てた状態では、切込み 9 2 c を形成した箇所が正面側に突出する。

【0055】

破断線 9 2 a、9 2 b と切込み 9 2 c とによって、蓋板部 9 0 の破断線 9 2 a と破断線 9 2 b により区画された第 1 領域 9 4 a を蓋板部 9 0 における正面側領域以外の領域である第 2 領域 9 4 b（破断線 9 2 a よりも正面板部 1 2 側の領域）と第 3 領域 9 4 c（破断線 9 2 b よりも正面板部 1 2 側の領域）に対して分離するための切目線 9 2 K が形成される。また、切込み 9 2 c により、蓋板部 9 0 の第 1 領域 9 4 a の正面側の端部は、正面板部 1 2 から正面側に突出した構成となっている。なお、切込み 9 2 c は、切込みの代わり

にて破断線としてもよい。

【0056】

また、蓋板部90と正面板部12間の境界位置には、略コ字状の切込み96a、96bが形成され、切込み96aは、切込み92cに対して折れ線90aを介して右側面側に形成され、切込み96bは、切込み92cに対して折れ線90aを介して左側面側に形成されている。

【0057】

また、差し込み片100は、蓋板部90の正面板部12側とは反対側の辺部から折れ線を介して連設され、本体部（差し込み片本体部）102と、本体部102の左右両側から突出した突状部104、106とを有している。差し込み片100は、蓋板部90に対して左右方向に均等の位置に形成されている。

【0058】

本体部102は、長方形形状の板状を呈し、蓋板部90の辺部（凹部91aと凹部91b間の辺部）から折れ線100aを介して連設されている。折れ線100aは左右方向を向いている。

【0059】

また、突状部（右側面側突状部）104は、本体部102の右側面側の辺部から折れ線104a（折れ線100aとは直角（略直角としてもよい）の折れ線）を介して連設され（つまり、突状部104と本体部102間の境界に沿って折れ線104aが形成されている）、略台形形状を呈し、右側面側の辺部104bと、蓋板部90側の辺部（蓋板部対向辺部）104cと、辺部104cと反対側の辺部104dとを有している。右側面側の辺部104b（先端側の辺部）は、蓋板部90から遠ざかるほど右側面側となる直線状の傾斜辺であり、辺部104bと折れ線104a間の長さは、蓋板部90から遠ざかるに従い長くなる。また、辺部104cは、本体部102の右側面側の辺部から連設され、蓋板部90の辺部90d（本体部102の右側面側の辺部における蓋板部90側の端部と連設した辺部）と略平行（右側面側に行くほど辺部90dとの間隔が大きくなるように左右方向に対して若干傾斜している。これにより、突状部104が内側側板部32に係止しやすい。）に対向している。辺部104cと辺部90d間には間隔が形成されている。辺部104bは、辺部104cの右側面側の端部から連設している。また、辺部104dは、右側面側に行くほど蓋板部90側に近づくように左右方向に対して若干傾斜して形成され、本体部102の蓋板部90側とは反対側の辺部102aと連続して形成されている。辺部104bと辺部104d間には、アールが形成されている。なお、突状部104において、辺部104cを省略して、辺部104bが本体部102の右側面側の辺部から連設された構成としてもよい。

【0060】

また、突状部（左側面側突状部）106は、突状部104と対称（線対称）に形成され、本体部102の左側面側の辺部から折れ線106a（折れ線100aとは直角（略直角としてもよい）の折れ線）を介して連設され（つまり、突状部106と本体部102間の境界に沿って折れ線106aが形成されている）、略台形形状を呈し、左側面側の辺部106bと、蓋板部90側の辺部（蓋板部対向辺部）106cと、辺部106cと反対側の辺部106dとを有している。左側面側の辺部106b（先端側の辺部）は、蓋板部90から遠ざかるほど左側面側となる直線上の傾斜辺であり、辺部106bと折れ線106a間の長さは、蓋板部90から遠ざかるに従い長くなる。また、辺部106cは、本体部102の左側面側の辺部から連設され、蓋板部90の辺部90e（本体部102の左側面側の辺部における蓋板部90側の端部と連設した辺部）と略平行（左側面側に行くほど辺部90eとの間隔が大きくなるように左右方向に対して若干傾斜している。これにより、突状部104が内側側板部32に係止しやすい。）に対向している。辺部106cと辺部90e間には間隔が形成されている。辺部106bは、辺部106cの左側面側の端部から連設している。また、辺部106dは、左側面側に行くほど蓋板部90側に近づくように左右方向に対して若干傾斜して形成され、本体部102の蓋板部90側とは反対側の辺部

10

20

30

40

50

102 aと連続して形成されている。辺部106 bと辺部106 d間には、アールが形成されている。なお、突状部106において、辺部106 cを省略して、辺部106 bが本体部102の右側面側の辺部から連設された構成としてもよい。

【0061】

なお、辺部104 bの方向と左右方向（例えば、折れ線100 aの方向）がなす角度や、辺部106 bの方向と左右方向とがなす角度は、40～60度（好適には、45～55度）となっており、角度 γ 1や角度 γ 2よりも小さく（若干小さく）形成されている。このように、辺部104 b（辺部106 b）の方向と左右方向がなす角度を角度 γ 1や角度 γ 2よりも若干小さくしておくことにより、差し込み片100を内側側板部32に係止させる際に、突状部104が辺部32 bに当接することにより突状部104が本体部102 10
に対して折曲して、辺部104 bが辺部32 bと平行（略平行としてもよい）となる（つまり、辺部104 bと辺部32 bとが同一（略同一としてもよい）の方向となる）とともに、突状部106が辺部32 cに当接することにより突状部106が本体部102に対して折曲して、辺部106 bが辺部32 cと平行（略平行としてもよい）となり（つまり、辺部106 bと辺部32 cとが同一（略同一としてもよい）の方向となる）、これにより、突状部104が切欠部32 aの右側面側の端部領域を通過するのに支障がないとともに、突状部106が切欠部32 aの左側面側の端部領域を通過するのに支障がなく、かつ、突状部104、106を左右方向になるべく長く形成して（つまり、辺部104 b（辺部106 b）の方向と左右方向がなす角度が小さい方が突状部104、106を左右方向に長くできる）、突状部104、106の内側側板部32との係止を強固にすることができる。特に、突状部104が切欠部32 aの右側面側の端部領域を通過する際には、辺部104 bと辺部32 bとは同一（略同一としてもよい）の方向となって密接した（重なり合ったとしてもよい）状態となり、突状部106が切欠部32 aの左側面側の端部領域を通過する際には、辺部106 bと辺部32 cとは同一（略同一としてもよい）の方向となって密接した（重なり合ったとしてもよい）状態となる。

【0062】

なお、折れ線104 a、106 aの箇所には、突状部104、106が本体102に対して折曲しやすいように、予め罫線を形成しておくが、突状部104、106が本体部102に対して折曲した状態から復帰しやすいように差し込み片100の外側の面に罫線（凹溝状の罫線）を形成しておくのが好ましい。例えば、折れ線100 aを押罫により罫線を形成するのに対して、折れ線104 a、106 aを逆罫により形成して（つまり、折れ線100 aが山折りとすると、折れ線104 a、106 aが谷折りとなる）、差し込み片100の外側の面（包装箱5を閉状態にロックした場合に、背面板部16側となる面）の折れ線104 a、106 aの位置に罫線を形成し、突状部104、106が外折れして復帰しやすいようにする。

【0063】

以上のようにして、差し込み片100の右側面側には、蓋板部90から遠ざかるほど右側面側となるように傾斜した直線状の辺部104 bが設けられ、差し込み片100の左側面側には、蓋板部90から遠ざかるほど左側面側となるように傾斜した直線状の辺部106 bが設けられている。また、差し込み片100の左右両側は、左右方向に最も突出した部分（つまり、突状部104の右側面側の先端と突状部106の左側面側の先端）から蓋板部90側に向けて、傾斜辺（辺部104 b、106 b）が設けられ、これらの傾斜辺により差し込み片100の左右方向の幅が蓋板部90側にいくほど小さくなっているともいえる。

【0064】

また、差し込み片100の基端側のくびれた部分を首部とし、首部よりも先端側を頭部とすると、頭部の左右両側には、蓋板部90から遠ざかるほど左右方向の幅が大きくなるように傾斜辺が形成されているといえる。

【0065】

なお、差し込み片100の左右方向の最大幅（最大長さ） α 1（突状部104の右側面

10

20

30

40

50

側の先端と突状部 106 の左側面側の先端間の長さ) は、内側側板部 32 の切欠部 32 a の左右方向の最大幅 (最大長さ) $\beta 1$ (辺部 32 d の長さ) よりも大きく形成され ($\alpha 1 > \beta 1$)、本体部 102 の左右方向の長さ (首部の左右方向の長さ) $\alpha 2$ は、切欠部の左右方向の最小幅 $\beta 2$ (辺部 32 b の左側面側の端部と辺部 32 c の右側面側の端部間の長さ) と略同一に形成されている ($\alpha 2 = \beta 2$)。なお、 $\alpha 2 = \beta 2$ としてもよい。また、突状部 104 の左右方向の長さ $\alpha 3$ は、切欠部 32 a における辺部 32 b-2 の内側の端部と外側の端部間の左右方向の長さ $\beta 3$ よりも大きく形成され、突状部 106 の左右方向の長さ $\alpha 4$ は、切欠部 32 a における辺部 32 c-2 の内側の端部と外側の端部間の左右方向の長さ $\beta 4$ よりも大きく形成されている。なお、突状部 104 の長さ $\alpha 3$ と突状部 106 の長さ $\alpha 4$ は、後述するように、本体部 102 に対して折曲しながら切欠部 32 a を挿通できる長さに形成されている。

【0066】

また、包装箱 5 は、1 枚のシート状のブランク (具体的には、両面段ボール) により形成されているが、両面段ボールを構成する中芯 (一对のライナー間に挟まれた中芯) の段の方向 (段ボール (段ボール材) の段の方向) は、左右方向とする (つまり、図 9 に示すシート状のブランクを右側面側と左側面側から視認すると、中芯の波形形状を見ることができる) のが好ましく、これにより、中芯の段の方向が前後方向である場合に比べて、突状部 104、106 が本体部 102 に対して折曲した場合に復帰しやすくすることができる。

【0067】

なお、展開状態の包装箱 5 を製造するに際しては、上記各折れ線の箇所には、折れ線に沿って折曲しやすいように、予め罫線を形成しておく。展開状態の包装箱 5 を形成したら、糊代部 12 a、12 b、16 a、16 b を介して接着し、包装箱 5 を組み立てる。包装箱 5 は、左右対称に形成され、その展開状態においても、左右対称 (線対称) に形成されている。

【0068】

上記構成の包装箱 5 の使用状態について説明する。なお、内側構成部 30 は、本体部 7 の内部に収納された状態とする。まず、包装箱 5 に被収納物を収納するには、図 6、図 7 に示すように、蓋板部 90 とフラップ部 20、22 を開けた状態とする。つまり、蓋板部 90 を正面板部 12 に対して外側に回動した状態とし、フラップ部 20 を右側面板部 14 に対して外側に回動した状態とし、フラップ部 22 を左側面板部 18 に対して外側に回動した状態とする。

【0069】

そして、被収納物 (図示せず) を内側底板部 50 の開口部 50-1、50-2、50-3 に収納する。

【0070】

そして、蓋板部 90 を、正面板部 12 に対して、本体部 7 の上面の開口部 (正面板部 12 と右側面板部 14 と背面板部 16 と左側面板部 18 の上端に囲まれた開口部) に対して閉じるように回動させて、差し込み片 100 が背面板部 16 の上位置に来るようにする (図 13 (a) 参照)。

【0071】

その後、差し込み片 100 を背面板部 16 と背面支持板部 40 の間に差し込む。つまり、差し込み片 100 の突状部 104 の外側の面を内側側面部 32 の辺部 32 b に当接させるとともに、突状部 106 の外側の面を内側側面部 32 の辺部 32 c に当接させた状態とする (その際、突状部 104 は本体部 102 に対して折れ線 104 a を介して折曲した状態となり、突状部 106 は、本体部 102 に対して折れ線 106 a を介して折曲した状態となっている)。図 13 (b) は、突状部 104 が辺部 32 b に当接して、突状部 104 が本体部 102 に対して折曲した状態を示している。

【0072】

その後、蓋板部 90 の差し込み片 100 側の領域を押し込むことにより、突状部 104

が切欠部 3 2 a の右側面側の端部領域に挿通し、突状部 1 0 6 が切欠部 3 2 a の左側面側の端部領域に挿通する。差し込み片 1 0 0 の突状部 1 0 4 の辺部 1 0 4 b と突状部 1 0 6 の辺部 1 0 6 b は傾斜して形成されているので、切欠部 3 2 a の端部領域に挿通（つまり、通過）しやすくなっている。つまり、内側側板部 3 2 の辺部 3 2 b、3 2 c に傾斜辺が形成されているのに合わせて、辺部 1 0 4 b、1 0 6 b は傾斜して形成されているので、切欠部 3 2 a の端部領域に挿通しやすくなっている。また、折れ線 1 0 4 a、1 0 6 a が形成されているので、突状部 1 0 4、1 0 6 の本体部 1 0 2 に対する折曲は容易であり、容易に突状部 1 0 4、1 0 6 を切欠部 3 2 a に挿通することができる。つまり、突状部 1 0 4、1 0 6 が容易に切欠部 3 2 a を通過することができる。

【0073】

すると、辺部 3 2 b に当接することにより本体部 1 0 2 に対して折れ曲がっていた突状部 1 0 4 が本体部 1 0 2 と面一となるように復帰しようとして、突状部 1 0 4 が内側側板部 3 2 の下側に位置するようになり、同様に、辺部 3 2 c に当接することにより本体部 1 0 2 に対して折れ曲がっていた突状部 1 0 6 が本体部 1 0 2 と面一となるように復帰しようとして、突状部 1 0 6 が内側側板部 3 2 の下側に位置するようになり、差し込み片 1 0 0 の突状部 1 0 4 と突状部 1 0 6 とが内側側板部 3 2 に係止する。以上のようにして、差し込み片 1 0 0 が本体部 7（特に、内側側板部 3 2）にロックされる。つまり、図 3 に示すように、突状部 1 0 4 が内側側板部 3 2 の辺部 3 2 b よりも右側面側の領域に係止し、突状部 1 0 6 が内側側板部 3 2 の辺部 3 2 c よりも左側面側の領域に係止する。なお、図 4、図 5 は、突状部 1 0 4 が本体部 1 0 2 に対して若干折曲している状態を示しているが、この状態でも突状部 1 0 4 は、内側側板部 3 2 に係止している。なお、切欠部 3 2 a の辺部 3 2 b には傾斜辺である辺部 3 2 b-2 が形成され、辺部 3 2 c には傾斜辺である辺部 3 2 c-2 が形成されているので、突状部 1 0 4、1 0 6 が復帰しようとすることにより、内側側板部 3 2 に係止しやすくなっている。つまり、辺部 3 2 b、3 2 c が左右方向に対して直角に形成されている場合に比べて、内側側板部 3 2 における辺部 3 2 b、3 2 c 形成領域は、背面板部 1 6 側にいくほど内側にせり出しているもので、その分、突状部 1 0 4、1 0 6 が内側側板部 3 2 に係止しやすい。

【0074】

差し込み片 1 0 0 の突状部 1 0 4、1 0 6 が内側側板部 3 2 に係止した状態とすると、蓋板部 9 0 の背面側を上方に回動させて蓋板部 9 0 を開けようとしても、突状部 1 0 4、1 0 6 が内側側板部 3 2 に係止しているため、蓋板部 9 0 の背面側を上方に回動させて蓋板部 9 0 を開けることはできず、包装箱 5 は閉状態にロックされる。突状部 1 0 4、1 0 6 が内側側板部 3 2 に係止した状態では、特に、突状部 1 0 4 の辺部 1 0 4 c と蓋板部 9 0 の辺部 9 0 d 間に内側側板部 3 2 の辺部 3 2 b 付近の領域が位置し、突状部 1 0 6 の辺部 1 0 6 c と蓋板部 9 0 の辺部 9 0 e 間に内側側板部 3 2 の辺部 3 2 c 付近の領域が位置して、差し込み片 1 0 0 が確実に内側側板部 3 2 に係止される。

【0075】

蓋板部 9 0 を開ける場合には、破断線 9 2 a、9 2 b を破断して蓋板部 9 0 の第 1 領域 9 4 a を開ける。つまり、蓋板部 9 0 の第 1 領域 9 4 a の正面側の端部に指を掛け、破断線 9 2 a、9 2 b を破断しながら、第 1 領域 9 4 a の正面側の領域から上方に引き上げていき、破断線 9 2 a、9 2 b を破断したら、図 1 4 に示すように、第 1 領域 9 4 a を背面側に回動させる。なお、差し込み片 1 0 0 は、内側側板部 3 2 に係止した状態となっているので、第 1 領域 9 4 a は、差し込み片 1 0 0 との間の折れ線 1 0 0 a を中心に回動する。

【0076】

なお、破断線 9 2 a、9 2 b は、蓋板部 9 0 において差し込み片 1 0 0 形成側とは反対側に形成されているので、破断線 9 2 a、9 2 b を破断しても、差し込み片 1 0 0 が抜けやすくなるわけではない。また、破断線 9 2 a、9 2 b は、差し込み片 1 0 0 と接していないので、破断線における一部が破断してしまうことにより、差し込み片 1 0 0 が抜けやすくなるようなことはない。

【0077】

その後、第2領域94bと第3領域94cを正面側に回転させて開けた状態とし、さらに、フラップ部20、22を外側に回転させて開けた状態として被収納物を取り出す。

【0078】

以上のように、本実施例の包装箱5によれば、蓋板部90を閉じて、差し込み片100を切欠部32aに差し込んで内側側板部32に係止させることにより、突状部104、106が内側側板部32に係止した状態となるので、差し込み片100に係止した状態から抜けるのを強固に防止することができ、破断線92a、92bを破断しなければ蓋板部90を開けることができないので、良好に不正を防止して改ざんを防止することができる。

【0079】

特に、差し込み片100が内側側板部32に係止して閉状態にロックされた状態の包装箱5においては、包装箱5の外側から突状部104、106の内側側板部32への係止状態を解除することはできないので、差し込み片が抜けるのを強固に防止でき、突状部104、106の係止を解除しようとする、突状部104と本体部102の接続部分や突状部106と本体部102の接続部分を破断しなければならないことから、突状部104と本体部102の接続部分や突状部106と本体部102の接続部分が破断されていれば、不正が行われた可能性を知ることができる。

【0080】

また、差し込み片100の左右方向の最大幅（最大長さ） $\alpha 1$ は、内側側板部32の切欠部32aの左右方向の最大幅（最大長さ） $\beta 1$ よりも大きく形成されている（ $\alpha 1 > \beta 1$ ）ので、突状部104、106を内側側板部32に確実に係止させることができる。

【0081】

また、特に、包装箱5を段ボール材（特に、薄型段ボール材）により形成することにより、突状部104、106を本体部102に対して折曲しても復帰しやすく、突状部104、106を良好に内側側板部32に係止させることができる。つまり、段ボール材は、板紙に比べて、折曲した状態から復帰しやすいので、適しているといえる。

【0082】

また、差し込み片100の外側の面の折れ線104a、106aの箇所に形成された罫線により、突状部104、106が復帰しやすいので、容易に突状部104、106が内側側板部32に係止した状態とすることができる。

【0083】

また、特に、背面支持板部40により内側側板部32が背面板部16となす鋭角の角度を保つことができ、これにより、内側側板部32と背面板部16間の空間を広く形成することができるので、突状部104、106が本体部102に対して大きく折曲した状態でも、突状部104、106が切欠部32aの両側の端部を通過することができ、差し込み片100の左右方向の長さ $\alpha 1$ と切欠部32aの左右方向の長さ $\beta 1$ との差が大きく、突状部104、106が左右方向に長く形成されていても（つまり、本体部102から突出した長さが長くても）、容易に突状部104、106を内側側板部32に係止させることができる。また、突状部104、106が左右方向に長い場合には、その分内側側板部32に係止する長さが長くなり、差し込み片100がより強固に係止されるので、差し込み片の抜けを強固に防止できる。

【0084】

なお、上記の説明において、破断線92a、92bと切込み92cが形成されているとして説明したが、他の構成でもよく、例えば、切込み92cの代わりに、正面板部12に略U字状の破断線を形成し、該略U字状の破断線の一方の端部が破断線92aの正面側の端部と連続し、該略U字状の破断線の他方の端部が破断線92bの正面側の端部と連続するようにしてもよい。また、蓋板部90の正面側の領域において、蓋板部90の右側面側の端部から左側面側の端部に至る互いに平行な2本の破断線を形成し、この2本の破断線を破断することにより2本の破断線間の領域をジッパーとして分離できるようにしてもよい。また、正面板部12において、正面板部12の右側面側の端部から左側面側の端部に

10

20

30

40

50

至る互いに平行な２本の破断線を形成し、この２本の破断線を破断することにより２本の破断線間の領域をジッパーとして分離できるようにしてもよい。この場合には、破断線を破断しても蓋板部９０はそのままの形状で残るので、蓋板部９０の全体が差し込み片１００との間の折れ線１００aを介して回動することになる。以上のように、破断線は、蓋板部及び／又は正面板部に形成された構成であればよい。

【００８５】

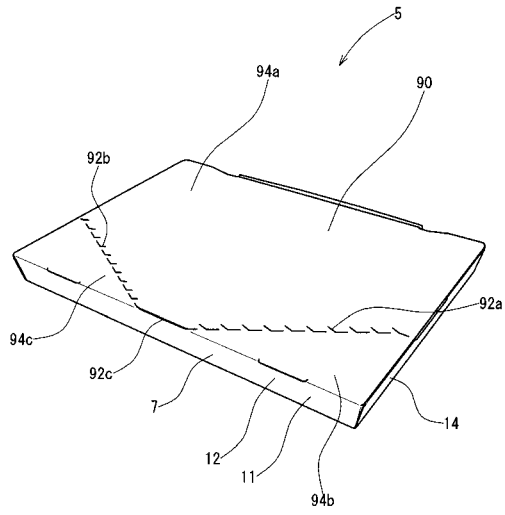
また、差し込み片１００には折れ線１０４a、１０６aが形成されているので、突状部１０４が切欠部３２aを構成する辺部３２bに当接した際に本体部１０２に対して折曲するとともに、突状部１０６が辺部３２cに当接した際に本体部１０２に対して折曲するので、突状部１０４、１０６が切欠部３２aを挿通しやすいが、折れ線１０４a、１０６aが形成されていない場合でも、突状部１０４、１０６がしなるとともに、背面板部１６と内側側板部３２間には突状部１０４、１０６がしなるときの空間が十分形成されているので、特に支障はない。また、折れ線１０４a、１０６aが形成されていない場合には、切欠部３２aに挿通して切欠部３２aを通過した際に、本体部１０２と面一に復帰する力が折れ線１０４a、１０６aを形成する場合に比べて強いので、差し込み片１００が強固に内側側板部３２に係止されるといえる。

【符号の説明】

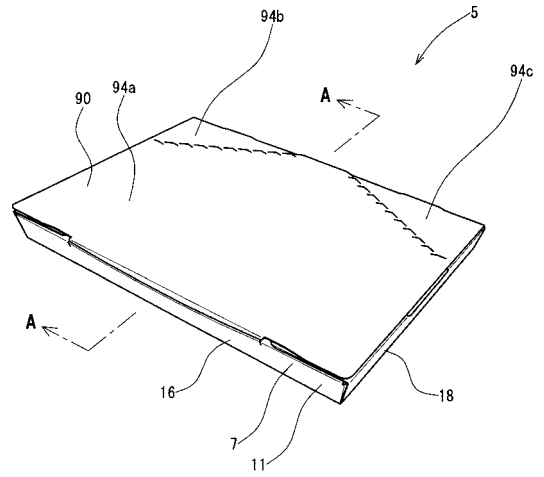
【００８６】

５	包装箱	
１０	底板部	20
１１	側面部	
１２	正面板部	
１２a、１２b、１６a、１６b	糊代部	
１４	右側面板部	
１６	背面板部	
１８	左側面板部	
２０、２２	フラップ部	
３０	内側構成部	
３２	内側側板部	
２０a、２２a、３２a	切欠部	30
３２b、３２c、３２d、３２b－１、３２b－２、３２c－１、３２c－２、１０４b、１０６b	辺部	
４０	背面支持板部	
５０	内側底板部	
６０	正面支持板部	
７０、８０	側面支持板部	
９０	蓋板部	
１００	差し込み片	
１０２	本体部	
１０４、１０６	突状部	40
１０４a、１０６a	折れ線	
９２a、９２b	破断線	

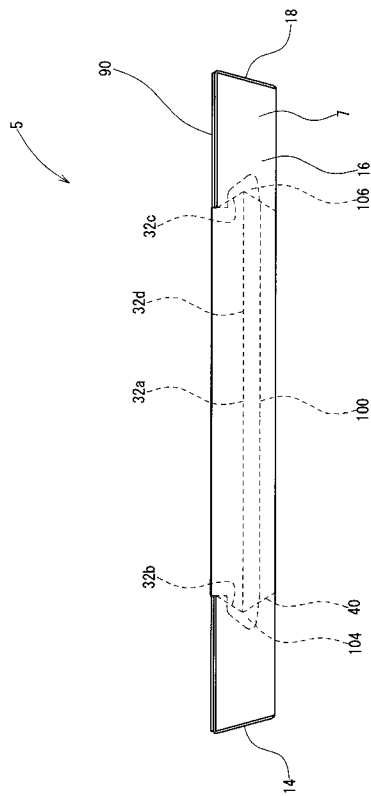
【図 1】



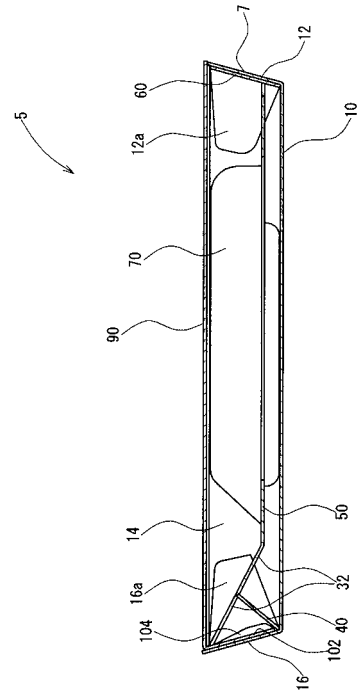
【図 2】



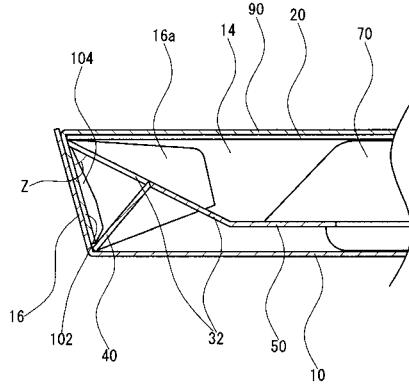
【図 3】



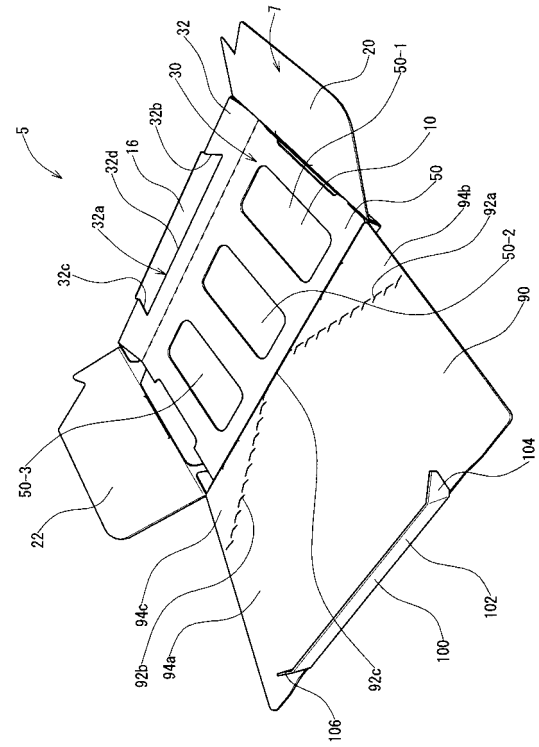
【図 4】



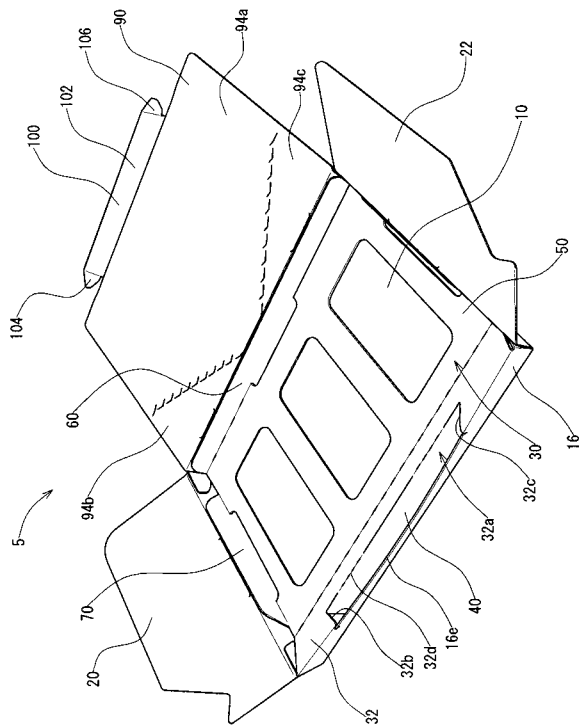
【図 5】



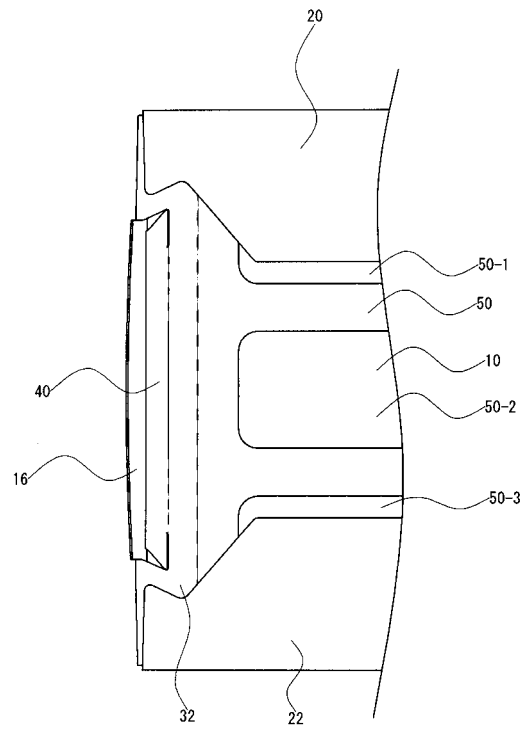
【図 6】



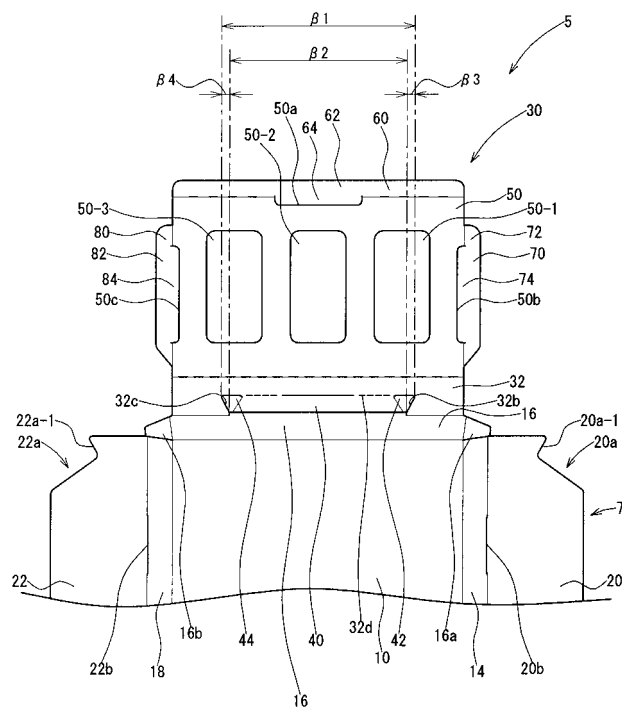
【図 7】



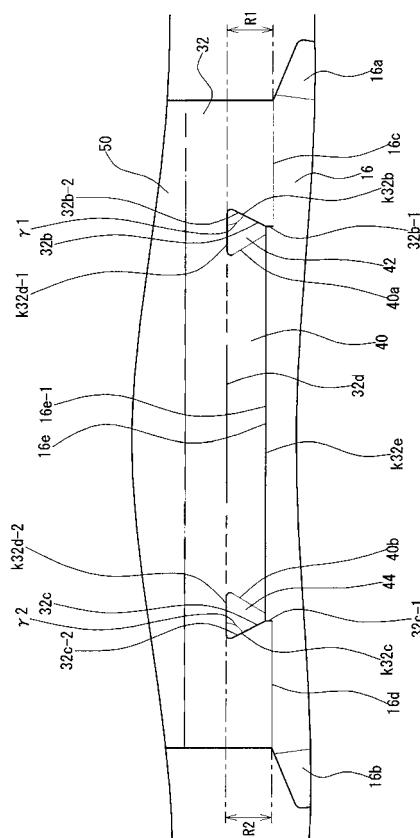
【図 8】



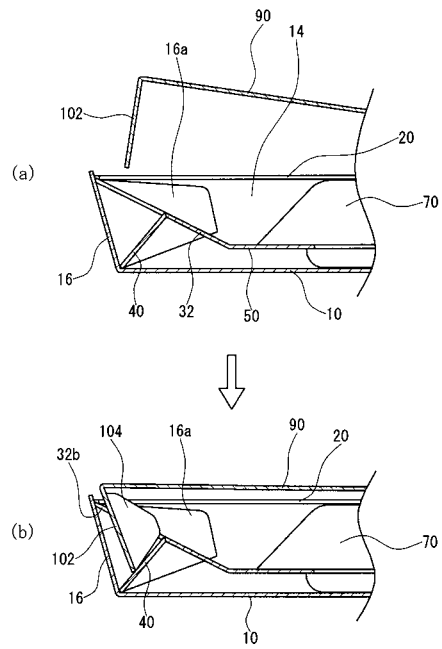
【図 10】



【図 1 2】



【図 13】



【図 14】

